

短観から窺える沖縄県景気の現状

1. 業況判断D I（最近、%ポイント）

＜先行き＞

調査回	2017年 12月	2018年 3月	2018年 6月	2018年 9月	2018年 12月	2019年 3月	2019年 6月
① 沖縄県	38	37	37	34	33	32	30
② 全国	16	17	16	15	16	12	7
①－②	+22	+20	+21	+19	+17	+20	+23

- ・沖縄県のD Iはジリジリと水準を下げており、全国のD Iとの差も縮小傾向にある。
 - 今回の3月調査では、両者とも水準が低下したが、製造業のウェイトが高い全国の方が低下幅が大きかったため、両者の差は拡大した。
- ・現時点では、「全体として拡大している」という景気の総括判断を変える必要はないと判断しているが、「これ以上良くなる気配は感じられない」という意味で、沖縄県の景気拡大の速度は緩やかになっている感がある。
 - このところの「先行き予測と実績の乖離」をみると、先行きをやや楽観視する傾向が窺われている。

2. 売上高（前年度比、%）

調査回	2017年 12月	2018年 3月	2018年 6月	2018年 9月	2018年 12月	2019年 3月
沖縄県	+3.1	+1.3	+2.6	+2.3	+2.7	+2.4
全国	+3.0	+1.0	+1.5	+2.1	+2.7	+0.8

3. 経常利益（前年度比、%）

調査回	2017年 12月	2018年 3月	2018年 6月	2018年 9月	2018年 12月	2019年 3月
沖縄県	+2.7	+0.2	▲1.7	▲1.6	▲2.7	▲3.4
全国	+5.2	▲1.5	▲5.1	▲3.6	▲0.8	▲0.7

- ・「沖縄県のD I > 全国のD I」となっている一方、「売上高や経常利益のパフォーマンスは全国と概ね同水準」となっている。
- ・マインド先行で、折角の好景気を自社の業績に必ずしも十分には取り込めていないことが窺える。
 - 好景気の追い風が吹いているうちに、生産性向上等を通じて、収益力を強化することが、従来からの構造的な課題。
 - 春闘の賃上げ率をみても、全国と同水準に止まっており、好景気を活かした「収益力強化→処遇改善・所得上昇」という好循環が、必ずしも十分には働いていないことが窺える。

以 上